THE NA Way MAGAZINE®

世界中で読まれているNAの定期刊行物

2019年7月号
第36号 ◆ 3号

- NA初のサービス デイ
- 2019年 ユニティデイ
- 西アフリカ初の女性ミーティング

THE NA Way MAGAZINE®

世界中で
読まれている
NAの定期刊行物

NA Way マガジン は、ナルコティクス アノニマスのメンバーのための雑誌であるため、英語、ペルシャ語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語など、さまざまな言語で出版されている。そしてこの雑誌の使命は、ひとりひとりのメンバーに回復とサービスに関する情報を提供することであり、そこには回復にまつわる喜びだけでなく、現在NAで問題となっていることや世界中のNAメンバーのだれにとっても見過ごせないイベントなども取り上げている。編集スタッフはこのような使命に従い、世界中のメンバーが特集記事をはじめとするさまざまな記事を書いて、自由に載せられる雑誌にしようとするのはもちろん、現在行われているサービスやコンベンションに関する情報を提供することにも力を注いでいる。だが、これが定期的にメンバーに届く雑誌であるからには何よりもまず、『アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのをやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができる』というNAの回復のメッセージをたたえることにこそ力を注ぐ

NA World Services, Inc.
PO Box 9999
Van Nuys, CA 91409 USA
Telephone: (818) 773-9999
Fax: (818) 700-0700
Website: www.na.org

NA Way マガジン では、読者のみなさんが参加されるのをお待ちしている。この年に４回発行される定期刊行物によって、ぜひ、世界中の仲間たちと分かち合いをしていただきたい。回復するなかでの経験はもちろんのこと、NAのさまざまなことに関する意見や、これからの課題などについても投稿をお待ちしている。ただし、投稿された原稿はどれもみな、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社に所有権があるものとされる。購読の予約、編集に対する意見のほか、著作権など実務的なことでの相談は、PO BOX 9999, Van Nuys, CA 91409-9099 にお問い合わせいただきたい。

NA Way マガジン は、NAメンバーがそれぞれに自分で経験したことや自分なりの意見を紹介する雑誌である。ここにはNA全体の意見は表明されていない。そしてもちろん、ナルコティクス アノニマス、NA Way マガジンまたはナルコティクス アノニマス ワールドサービス社によって支持されていると受け取れるような記事も掲載されてはいない。また、インターネットからNA Way マガジンを配信することを希望する場合には、上記のアドレスに手紙をいただくか、naway@na.orgにeメールをいただきたい。

NA Way マガジン（The NA Way Magazine：ISSN 1046-5421）、NA Way（The NA Way）、ナルコティクス アノニマス（Narcotics Anonymous）、この３つは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社のトレードマークとして商標登録されている。NA Way マガジンは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社（19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311）によって、年に４回発行される。

編集者から、ひとこと

…ひとりひとりのメンバーが、回復という贈り物を与えられることによって、スピリチュアルな成長を遂げながらサービスによる充実感をあじわうこと。

世界に広がるNAのサービス機関が協力をおしまず心をひとつにして取り組み、一丸となってNAの回復のメッセージを運んでいる世界中のNAグループを支援していくこと。

NAのサービスにたくす未来

NAのメンバーであるみなさんにとって、サービスとは何でしょうか。NAのエリアやリージョンの役割に選ばれることがすべてというメンバーもいる一方、引越しの手伝いや、家族の行事の手助けなど、友人や家族の求めに応じられることもサービスだと教えられるメンバーもいます。また、スポンサーがいれば、メンバーたちはおのずとグループのサービスにしっかり関わるようになるでしょう。そして、新しい仲間を支えたり、ユニティデイのイベントを開催する手助けしたり、あるいはリージョンのガイドラインを見直したりと、どのようなことでもわたしたちが力を合わせれば、よい結果が得られるのです。2019年5月1日には、みんなで「NAのサービスデイ」を祝いました。これはNAのサービスに関する初めてのイベントで、これから毎年NA全体で祝うものです。今月号では、この日にいくつかの国や地域で開催されたイベントをとりあげています。このほかにも「NAのサービスデー」をきちんと祝ったNAがあれば、naway @ na.orgに情報と写真をお寄せください。（また、10月号に向けて、ぜひ「PRウィーク」の活動に関する情報や写真もお寄せください）。

そして、「NA Way読者アンケート」にご協力いただいたみなさんには、心からお礼を申し上げます。回答は、郵便やインターネットによる回収のほか、（昨年のWCNA37で）直（じか）に回収されました。ありがたいことに、みなさんからはさまざまな意見やアイデアを提供していただきました。これは、NA Wayワークグループによって再検討されることになっています。わたしたちは、みなさん声をしっかりと受け止めながら、NAの回復とサービスに関する経験や情報をあますところなく掲載することを、つねに目指していきます。

ド・J（エディター）

今月号の掲載記事

特集記事 3
- グルポ・ダ・パス

わかちあい 5
- まだ、まだ…もっと、もっと
- いくつもの瞬間
- 32年を新たに
- 2019年5月7日

『スピリチュアル・プリンシプルズ・ア・ディ』に関する書籍プロジェクト 8

サービスセンター 9
フェローシップディベロップメント 10
ベーシック・キャプション・コンテスト 13
パブリックリレーションズ 14
グループ紹介 16
2019年ワールドユニティデイ 17
Calendar 18
NAWS Product Update 19
Coming Soon 20

表紙の写真： クリスティーン・L
エドモントン エリア サービス委員会発行：
月刊『EAENA』 2018年12月 第63号 （カナダ／アルバータ）

電子版はここをクリックすると追加のコンテンツを見られます

NA Way マガジン では、読者のみなさんからのお便りをお待ちしている。掲載された記事に対する感想はもちろん、NAという集まりのなかで取り上げられている問題についてひとつの考え方を示すにすぎないものであっても、エディター宛に送っていただきたい。250字以内にまとまっていれば、そのまま編集の手を加えずに掲載されることになっている。お便りには、本名、現在使われている住所および電話番号を明記することをお忘れなく。掲載される場合には、アノニマスでという希望がないかぎり、ファーストネームと苗字のイニシャルを署名として用いることになる。

特集記事

グルポ・ダ・パス

その日は、いつもの水曜とはちがっていた。俺たちが開くことになっていたのはサービスに関するミーティングで、グループのために奉仕を任されたしもべを選ぶ予定だった。外から参加したメンバーは4人。そのひとりが、俺のスポンサーだった。スポンサーは、グルポ・ダ・パス（パスは、ポルトガル語で「平和」を意味する）というグループの役に立つことをするようにと、俺を大いに励ましてくれた。グルポ・ダ・パスは、サンパウロにある矯正施設のグループだった。そこは当時のラテンアメリカでは最大規模の刑務所で、囚人の数も8千人を超えていた。俺たちはいつも、刑務所の外の歩道に午前8時30分に到着し、9時になったら中に入れてもらい、11時30分には刑務所を出るという段取りで出席することになっていた。俺は、このグループのミーティングに出席するようになって1年以上経っていたが、サービスの役割を引き受けたいとは思っていなかった。なぜかといえば、週に一度は午前中が丸々つぶれてしまうからだ。俺は働かなきゃならないし、NAのことだけやってるわけにはいかなかった。

その日も、刑務所の中に入る時刻になると、俺たちの担当になっている職員に迎え入れられた。この職員は見識のある人で、NAのよき友人となってNAのことをいろんなところで伝えてくれていた。俺たちは門のところで名前を名乗って、いつも「平安の祈り」を唱えるところでしばし立たずみ、それから金属探知機を通過して、ようやく刑務所のなかに入っていった。毎度のことながら、ドキドキした。今日は、はたしてどこでミーティングを開かせてもらえるのか、俺たちにはまったくわからなかったからだ。この刑務所にはいくつかのパビリオン（訳注:ホールのような場所）があったが、俺たちはすでにそのほとんどでミーティングを開いていた。

あの水曜日は、礼拝堂にある第5パビリオンでミーティングを行うことになると知らされた。そこは、「安全地帯」とされていた。受刑者の身の安全をはかるために、他のパビリオンとは行き来ができないようになっていたからだ。俺はグループのサービスに深入りする気がなかったのに、スポンサーの提案を受け入れてグループのサービス代表者（GSR）に立候補した。これは、刑務所の外でサービスに関わらなければならないため、受刑者には引き受けられない役割のひとつだった。グループのセクレタリーと手紙やポスターの係は、受刑者が務めていた。グループでは、話し合いと投票が行われる際に立候補者は席を外すことになっているので、俺は礼拝堂を出て医療補装具の実習室のそばで待機した。待っている間は不安で、わずか数分が永遠の時間に思えたが、すぐに仲間が呼びに来てくれたので会場に戻った。

俺はグループのGSRに選ばれたことで、喜びをわかちあった。手をあげることに抵抗してはいたけど、内心では、自分が正しいことをしようとしていることや、役割を引き受けることが自分に成長をもたらすと思っていたからだ。ミーティングはそのまま進行して、外部からいっしょに参加した3人のメンバーのひとりが、オルタネートGSR(GSR代理)に選ばれた。そのとき突然、受刑者の一団が、ミーティングの行われている部屋に入ってきた。みんなナイフを手にしているし、銃を持っている者もいた。そして俺たちに向かって、「ドアを閉めて、中から鍵をかけろ。このパビリオンは占拠されたんだ。俺たちがいいと言うまで、ドアを開けるんじゃない」と怒鳴った。

外部から参加していた俺たちはもちろんのこと、部屋にいた受刑者たちも仰天したようだった。いつまでこうしているのか、先が読めなかった。頭をいろんな考えがかけめぐり、俺はここで死ぬのかとも思った。あのとき思ったことで何よりも大事だったのは、今日死んだとしても、俺は自分にとって最も重要で最も価値のあることをしているときに死ねるということだった。俺は、外の世界でのミーティングに出られない仲間たちに、強さ、信じる心、希望からなるNAのメッセージを運んでいるところだったからだ。

ミーティングは続行したが、部屋の空気ははりつめていた。部屋の外は大混乱になっていて、叫び声や騒がしい音が聞こえてきた。しばらくして、だれかがドアをガンガン叩くと、武装した受刑者のひとりが「ドアを

開けろ」と俺たちに怒鳴った。すぐさまドアが開けられ、またしても数人の受刑者が入ってきたが、その連中が手にしていたナイフは血まみれだった。それを目にして、俺は恐怖でいっぱいになった。

武装集団のひとりが俺たちの人数を確かめると、「立って、後について来い」と言った。ああ、俺たちはこれからどうなるんだろう?

立ち上がると、俺は少しクラクラした。一瞬、気を失うかと思った。なんとかその武装した若い男についていくと、俺たちはミーティングを開いていた第5パビリオンにつながる門までつれていかれた。あの日は、まさに「囚人の日」ともいうべき日で、いくつかの異なる集団が刑務所のなかで一斉に行動を起こしていたのだ。第5パビリオンではすでに、職員をはじめとして全員が人質になっていた。

第5パビリオンの外には、警察官や、看守や、刑務所の職員などが大勢つめかけていた。そのなかにNAミーテイングの調整役を務めていたあの職員もいて、反乱を起こした武装集団に俺たちを解放するようにと懇願していた。それに対して、囚われの身になった職員たちは人質の全員解放を求めたが、反乱の首謀者たちは応じることはなかった。そのとき、俺たちを門までつれてきた若い受刑者が、首謀者たちに向かって俺たちの解放を主張してくれた。すると、それが実現したのだ! なぜかわからないが、俺たちNAの奉仕を任されたしもべたちが真っ先に解放された。かすり傷も負ってなかった。だれも、俺たちには指一本触れることはなかった。あとになって、あの若い受刑者が以前から俺たちのミーティングに出席していたことや、刑務所のなかでとても尊敬されていたということがわかった。

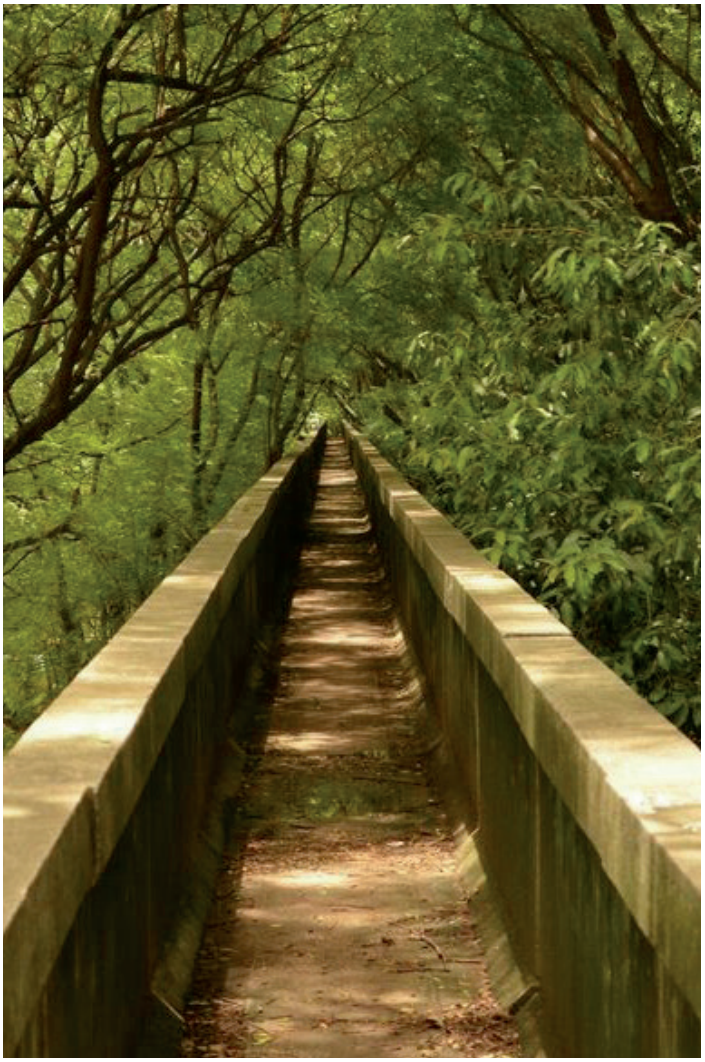
解放されてから、俺たちは事情聴衆を受けた。起きたばかりのことなのに、俺たちはまるっきり実感がなかった。4人とも、少しもうろうとしていたのだ。塀の中では、「仕返し」に殺害された者たちもいたが、ミーティングの出席者はひとりも被害にあっていないことを知ってホッとした。

その後、スポンサーが何度も電話をくれた。俺の様子を確認するためだ。大変な体験だったが、少しずつ心の整理がついていった。GSRになったばかりの俺は、少なくとも1年間は役目をまっとうする責任をひしひしと感じていた。そこで、「さて、これからどうするか。あんなことがあったあとで、あそこに戻ってうまくいくだろうか」と思った。

それでも、ミーティングは続いた。翌週の水曜日に、俺はあそこにいた。今回はひとりだったので、だれかが現れてくれることを祈っていた。俺たちのサービスガイドラインによれば、単身で刑務所内に入ってミーティングを開くということは絶対にしないことになっているからだ。しもべとなっているメンバーに手当たり次第電話をかけまくるうちに、やっと、ひとり来てくれたので、ミーティングを開くために中に入る準備が整った。俺たちは、刑務所内の仲間たちに会い、いつものように歓迎のあいさつを受けた。みんな、前の週に何もなかったかのように接してくれた。俺たちが部屋から飛び出したときに俺のスポンサーが忘れていったジャケットを返してくれたときは別としても、だれも事件に触れることはなかった。

俺がGSRという役目をまっとうできたのも、グルポ・ダ・パスの最後のミーティングまでとどまれたのも、ハイヤーパワーのおかげだと心から感謝している。結局、あの刑務所は2002年に閉鎖されたため、グルポ・ダ・パスのミーティングも打ち切られた。刑務所が解体されてすぐ、その跡地はユース・パーク(パーク・ダ・ジュヴェンチュード)と呼ばれる広大な公園になった。そこにはいくつもの運動場と、広々とした緑地と、立派な図書館ができたが、今も、俺たちがNAミーティングを開いていたあの刑務所の壁がいくつかそのまま残されている。

ただし、あの刑務所が閉鎖によって取り壊されたといっても、グルポ・ダ・パスというNAグループは終焉を迎えたわけではないのだ。いくつにも分かれて、増殖していった。それはメンバーとなっていた受刑者たちが、移送先の刑務所の中で、あるいはまた釈放されてから路上でと、メッセージを運んだおかげなのだ。今でも、晴れて自由の身となってから刑務所の外でやっているNAのミーティングに続けてやってくるメンバーたちと会うのは、めずらしいことじゃない。俺は感謝の気持ちでいっぱいだ。



写真： 「パーク・ダ・ジュヴェンチュード」にある高い歩道は、取り残された刑務所の一部です。

もうひとりのアディクトである俺は、1996年10月25日からずっと、今日だけ、クリーンでいる。

アノニマス(ブラジル／サンパウロ)

わかちあい

まだ、まだ…
もっと、もっと

ボクは6歳のとき、ものすごく食いしん坊な毛虫の物語に夢中だった。なぜかというと、ボクは食べ物に目がなかったからだ。クッキー、キャンディー、ケーキ、ポテトチップス、食べ物ならなんでもよかった。それに、芋虫が食べていたものは、まさに食欲をそそるものだった。小学1年生の時には、こんなことがあった。

小学校の図書館からあの芋虫の本を借りようとすると、いつも、ひとあしちがいでだれかが借りてしまっていた。最後には、「あの本が戻ってきたわよ」と、司書がわざわざボクのいる教室に伝えに来てくれた。どうやらボクは司書の同情をかったらしい。泣き落としがうまくいったのかも。あの本が貸し出し中だと知って、ボクは自分で空想をふくらませずにはいられなかったんだ。

このとりつかれたような行動が、自分の生涯を通してあらわれるパターンだと自覚するようになったのは、ずっとあとになってから（32歳のころ）だった。最初は、食べ物。それから、ビデオ・ゲーム。9歳のときには、授業中に思いつくかぎりのビデオゲームをリストアップして気を紛らわせた。11歳になると、それが野球選手、野球チーム、統計データにとってかわった。ボクの頭には野球百科事典ができあがっていた。こういうことばかりに頭を使っていたため、ボクは勉強にも人づきあいにもまったく身が入らなかった。

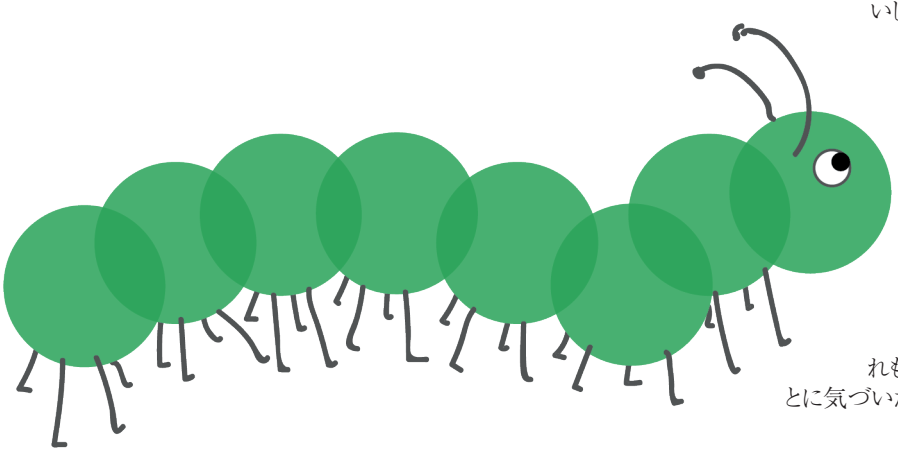
1996年に大学生になると、寮で同室になった同じ新入生から、のちにボクの本命となる薬物を紹介された。試してみると、世界が一変するようだった。ボクは内気なところがなくなり、社交的になった。女の子たちとも話ができた。フツーの人のように、ひととつきあえたのだ。それからのボクは、大学を卒業し、博士号を取得して、恋人ができ、キャリアを確立するということになる。だけど、ボクは社会人としての役目をしっかり果たそうとはせず、酒や薬物を手を出してばかりいた。

そして15年後の2011年1月15日に、ボクはうんざりすることにもほとほと疲れて嫌気がさした。博士号を取得する過程にあったので、ボクは社会に受け入れられるという面ではうまくやっていた。それが、ニューヨークからテキサス州のエルパソに移って、住む世界が変わった。知り合いもいないので、孤立してしまったような気がした。孤独感が増すほどに、使うことが増えていった。そんな状態がつづいたあげく、ボクは酒場でケンカをした。外に引きずり出されてなかったら、人生を台無しにするところだった。

それで、ボクはぬくぬくしたところから一歩踏み出して、初めてナルコティクス アノニマスのミーティングに行った。最初は、怖くてだれとも話せなかった。ミーティングが8時に始まる場合には、ボクは8時きっかりに会場に着くから、始まる前にだれとも話しをしなくてすんだ。そして9時30分にミーティングが終わると同時に、ドアから出ていた。どうしても、みんなに自分のことを知られるわけにはいかなかったからだ。

そうしてひどく緊張した状態が9ヶ月つづき、ボクは不安発作を起こすようになった。使っていたときには不安が何かもわからなくなっていたけど、クリーンになると堰を切ったようにあふれ出してきた。この時点で、ボクはようやく謙虚な気持ちになり、だれか、スポンサーになってもらえないかと頼むことにした。「ボクはあまり手のかからないスポンシーになるだろう」と冗談まで言った。

プログラムを受け入れ始めると、ボクは、幼いころに読んだ本のなかでガツガツ食べ続けていたあの食いしん坊の芋虫にそっくりだと気づくようになった。なんでも、もっとたくさん欲しかった。食べ物も、セックスも、金も、名声も、いくらあっても足りなかった。そして7年間クリーンであっても、ボクはデジタル全盛の時代にDVDやCDを購入することにハマっている。これもアディクションだから、ボクはナルコティクス アノニマスの原理によってうまく対処することを学んでいるところだ。



ボクは、子どものときには芋虫の食べまくる食べ物の描写に夢中で、あの本のメッセージを受けとれなかったのかもしれない。大人になってあの物語をインターネットで検索すると、あの芋虫は、6日間あれもこれもと食べまくって気持ちが悪くなってしまうということに気づいた。7日目には、葉っぱを一枚食べたきりで、もう空腹で

はない。芋虫は繭を紡ぎ、そこに2週間こもって、出てきたときには美しい蝶になっている。ボクは、クリーンになって7年をすぎたところで蝶に変わりつつあるのかどうかわからないけど、毎日少しずつ良くなっているし、薬を使わないことで回復の道を歩んでいるんだと思いたい。ボクはもう、ひとつの関係に縛られてはいないし、使っていたころに就いた仕事はそのまま経験を重ねている。前よりもずっと賢くなってだいぶ心穏やかになっているけど、ボクの学ぶことに終わりはない。回復の歩みを止めたら、その瞬間に、芋虫に戻ってしまう可能性が高くなる。だからといって、また自分を満たすためにせっせと何かを探し求めようにも、ボクには蝶の視点でわかってしまったことがありすぎるんだ。

クレイグ・W（アメリカ合衆国／バージニア）

いくつもの瞬間

人生は、一瞬一瞬がすべてだといわれる。幸いにも、わたしはこの週末に、心をとらえて離さない一瞬をいくつも経験させてもらった。わたしたちは思わぬことで呼び出され、アルバータ州のエドモントンからブリティッシュコロンビア州のヴァーノンまであたふたと駆けつけることになった。大草原を横切って、さらにいくつかの高い山道を抜けて、車で９時間ぐらいかかるはずだった。

走り出してから２時間もすると、大草原にふわふわとチラついていた雪が、吹雪に変わった。道路が凍りついていたので、わたしたちは神経を張りつめていた。前方には、何台か、道路から外れて立ち往生している車があった。そして、すぐ前を走っていた牽引トレーラーがいきなり高速道路をすべっていき、中央分離帯に突っ込んで車体が二つに折れ曲がってしまった。わたしたちは心臓をばくばくさせながら、トレーラから転がり落ちた牽引器具をよけて通った。トレーラーは道路に直立した状態になっていたけど、運転手は無事だったので、わたしたちはそのまま走りつづけた。一瞬、時が止まった。

西に向かい標高が高まるにつれて、空が晴れてきた。峠には、前夜からの大雪によってクリスマスカードの絵ができあがっていた。薄緑がかった青空の下に、雪をまとった白い樹々がどこまでも立ち並び、ところどころのわずかな隙間に緑がのぞいていた。一瞬、時が止まった。

峠を下っていくと、日差しの暖かさで溶けた雪がシャーベット状になっていた。道路からわずか数フィートのところでは、樹々から大雨のように水がしたたり落ちている。水は溝に流れ込み、かすかな蒸気になって再び立ちのぼり、きらめきながら弧を描いて空にもどっていった。一瞬、時が止まった。

さらに峠をひとつ越えてオカナガン渓谷に入ると、寒さも緩んだ。そこへ、病に倒れた仲間の義理の妹さんからメールが届いた。2年前、お父さんを亡くした直後に、わたしがあげた小石の写真だった。その石は、わたしがよく瞑想する森の中でお気に入りの場所にある小川で拾ったものだ。わたしは、その石に信じる心と書いておいた。それをみて、希望を捨ててはいけないことを思い出してほしいから。そんな話をしながら、ふたりで故人を悼んだのだった。温暖なオカナガン渓谷には、凍てついた大草原ではずっと姿をみせなかった鷹が、元気よく飛び回って狩をしていた。湿地に群れる白雁（ハクガン）は、まるで天使たちがぬかるみで戯れているかのようだった。一瞬、時が止まった。

やっとのことで到着したものの、状況はかんばしくなかった。病室は無菌室になっていて、仲間は呼びかけに応じなかった。だが、経過は希望がもてるものだった。仲間の昏睡状態は医療的な処置によるもので、肋骨の骨折による痛みに、肺の感染症もあり、さらには心室細動も起こしているため、昏睡状態にしないと身体が持ちこたえられないということだった。病室には、もうひとりの仲間がいた。疲れきって、まだショック状態にあった。この仲間が、昏睡している仲間の命を救ってくれたのだ。

救急車が来るまでCPR（心臓マッサージ）をしていて、肋骨が折れたのはその最中のことだった。

朝になって、仲間はゆっくりと昏睡から解かれた。まだ強い鎮静剤を投与されていたため、目を開けてもぼうっとしていた。チューブを引き抜かないように拘束された状態で、わたしたちの手を握りしめ、足を動かして、わたしたちの笑顔にこたえた。鎮静剤のせいでもうろうとしていたけれども、頭はしっかりしたままだった。身体は快方に向かうだろう。49歳で大きな心臓発作に襲われたあと、この仲間の人生は変わるだろう。いや、もう変わっていた。それも、一瞬のうちに。

このようないくつもの瞬間は、回復によってもたらされたものだ。わたしは仲間のところに行く呼び出しに応じる自由を与えられた。移動の手段も与えられた。トラックがあるし、タイヤもすり減ってはいない。回復によって、わたしは自分の時間と労力をささげ、病に倒れた仲間に心をかたむけ、この仲間の家族といっしょに希望と信じる心をもつことができた。そして、わたしは今この瞬間を生きて感謝する自由を与えられた。つまり、今この瞬間が、回復によってわたしにもたらされたのだ。

こうしたことを終わらせる方法など、わたしには知りようもないことに思える。どのようにして終わるのかは、自分のあずかり知らぬことだからだろう。それでも、一瞬の静止によって、わたしにはわかる。一瞬一瞬に心を込めていれば、ものごとには始まりもないし終わりもないだろう。

アノニマス

月刊『EAENA』
2018年12月、第63号
エドモントン エリア
サービス委員会発行

（カナダ／アルバータ）

32年を新たに

私は最近、回復においても、人生においても、かなり珍しい節目を超えた。そのことを、家族ともいうべき仲間たちにわかちあうことにしよう。2018年11月22日に、私はめでたく32年のクリーンタイムを迎えた。生まれたのは1954年9月で、32歳になった直後にクリーンになった。つまり、クリーンになるまでの人生と、クリーンで生きた人生とが、まったく同じ長さになるわけだ。このような節目を迎えるのは奇跡以外の何物でもない。

私は、NAでもう一度生きられるようにしてもらえた。それはハイヤーパワー、すなわち自分より大きな力が、ナルコティクス アノニマスのステップを中心とするプログラムや仲間を通して働くおかげだ。NAにつながる前のことでは、大統領の暗殺と、月面を歩く男た

ちと、ウッドストック（うわっ！）と、何度か結婚したこと、子供たちが誕生したこと、兵役に就いたことを思い出す。それと、祝いそこねた誕生日と、何度かの離婚、何人もの死、死にかけた子どもたちのことや、戦闘のことも忘れていない。いろいろあったが、良くも悪くも、私はいつも薬物を使ってやり過ごした。それも最後には、アディクションによってなんだかわからなくなってしまった。私は、生きていることが嫌でたまらなかった。心にのしかかる苦痛に打ちのめされ、ぼろぼろになって、なんとかNAにたどりついた。ここまできたら、もう降参しようという気になっていた。だから、とにかくスッパリやめさせてくれるならどんな罰も受けると、NAに存在するという何かに祈った。やめられるなら、死んでもよかった。実際に目にしたわけではないが、ハイヤーパワーは絶望のきわみに達した私にほほ笑みかけた。そして、アディクションによる死に代わるものを示してくれた。回復の道を歩む人生が与えられたのだ。

それからの32年は、今生きている人生も、私の歩んだ回復の道も、想像をはるかに超えた素晴らしい贈り物になった。これまでに結婚と離婚をそれぞれ二度経験して、今では孫がいる。NAにつながって以来、私は仕事を失ったことはない。このような贈り物は、アディクションにかかっていない人たちにすれば、どうということもないごく当たり前のものだが、私にとってはひとりの人間がいただくことができる最高のものだ。NAのステップと伝統によって、私は本当の自分と出会い、人生がもたらす贈り物をあますことなく手にしたのだ。

ふたつの人生を生きることになった私は、恵まれていた。最初の32年間については、たまに悔いることもある。つらかったし、苦しみと、恥と、罪悪感に満ちた日々だった。しかし、私が生まれ変わるためには、つまり回復の道具や仲間という味方を得て過去の過ちを正しながらまっとうな人間として生きていくためには、あの32年は必要な時間だったのだ。私にはスポンサーがいる。NAのステップには何度となく取り組んできた。それによって、私はかつての自分とはちがう人間になった。私にはホームグループがあるし、いろんな仲間たちがいる。NAでは、自分の病気のことは仲間たちの方がよくわかっていたりするものだ。残された人生を心穏やかに和気あいあいとして生きていくことができるのも、私に与えられた贈り物のひとつだ。こうして回復の道を歩めるのもナルコティクス アノニマスという仲間の集まりにつながれたのも、HPのおかげだと感謝している。

ではまた、次の32年へと一日、一日歩んでいこう。

ジョン・R
（アメリカ合衆国／コロラド）

Photo: Deb N, British Columbia, Canada

2019年5月7日

あたしは数日前にリラプスして、回復の道を歩み直すはめになりました。そのことをNAの仲間たちに公表する方法として、自分がいろいろと思うことを書いてみたところ、NA Wayマガジンに掲載されてもおかしくはないから、投稿するようにとスポンサーにすすめられたのです。これが掲載されてだれかの役に立てるといいのですが。そう願って投稿します。

神さま、こうしてつまらない失敗をしたわたしを、どうか導いてください。強さと、勇気、賢さ、希望、安らぎが与えられ、今日一日をうまく生きられるようにと祈っています。

２日前、あたしは友だちが死んだとわかって、頭のなかが不安定な感情に支配されてしまった。そんな状態のときにはまず、NAの仲間に、さもなきゃだれでもいいから、電話をすれば衝動的に行動することもないのに、あたしは精神的にも、感情的にも、身体的にも、さらにはスピリチュアルな面でも、そう判断できるほどしっかりしていなかった。しっかりするどころか、道を踏み外してしまった。まったく、情けないったらありゃしない。そうかといって、恥じているわけでもない。だって、あたしは正直になって、逃げも隠れもせず、リラプスしたことを話そうとしているもの。たしかに、あたしはしくじった。けれども、重箱の隅をつつくようなことをしていつまでもクヨクヨしているつもりはない。もう起きちゃったことなんだから、あたしはそれについてすべきことをするつもりだ。

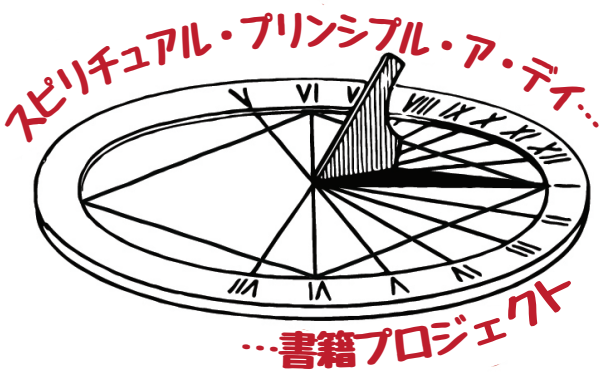
あたしは、自己憐憫や、失意、罪悪感、恥じる気持ちにはひたらないと心に決めた。取り返しのつかない間違いをおかしても、自分を嫌悪したりはしない。そんなことできないし、するつもりもない。それこそ、自分がかわいそうだもの。あたしは神じゃないし、人間だから間違いをおかす。リラプスは、回復の道でだれが経験してもおかしくはない。転んだだけじゃ、つまずきとは言わない。転んでも立ち上がったから、つまずいたというのだ。そうやって立ち上がってから自分が選んでいくことが、本当に重要なものになる。あたしはリラプスから何かを学び、やり直すことにした。もう起き上がって、体のホコリを払い、ちゃんと歩ける状態に戻った。だって、もう一度やってみるつもりだもの。このままポシャってしまうなんてまっぴらだ。これからはずっと立ち向かっていくわ。

あたしは、あんな道をまた逆戻りすることなんてできないし、そんなつもりもない。奈落の底でこれ以上ないというくらいの恐怖を味わったのだから、もうたくさんだ。それでも、首までつかりかけたら、抜け出そうとするのがどんなに大変で苦しいものか、あたしは忘れていない。解毒のこともことごとく覚えている。神さま、もう終わりにして、このまま死なせてと、何度となく泣き叫んで懇願したことを忘れたわけじゃない。イヤというほど覚えているし、だからこそ、あたしは戻るつもりはない。リラプスによって死ぬこともあるからじゃない。死ぬに決まっているからだ。あたしにはそんな覚悟はないし、だれだってそうだろう。

というわけで、みんなにはガッカリされても仕方ないけど、これからも見守って力になってもらいたいの。今でこそ、こうしているけど、最悪の事態になっていてもおかしくはなかったのだから、あたしは今度こそ真剣に努力しようとしている。そのことをわかってもらうためにも、あたしは、あきらめちゃダメなのよね。

ブリアナ・T
（アメリカ合衆国／ミシガン）

みんなで新しい本をつくっていこう！



日々の生活にスピリチュアルな原理を活かすことで私たちが経験したことをまとめる

『スピリチュアル・プリンシプル・ア・デイ（SPAD）』に関する書籍プロジェクトに、ご協力をお願いします。詳しくは、www.na.org/spad をご覧ください。
・自分で書いてみたくなったり、ワークショップでディスカッションしてみたくなるような原理や引用。
・NA全体による見直しと意見提供を求める第1弾の原稿。

見直しと意見提供の締め切り：　2019年9月1日

第１弾の原稿をダウンロードして、ご検討ください。今回は、一体性、受け入れること、幸福、愛についてみなさんから寄せられた資料をまとめました。ひとつの原理につき、12の記載項目があり、全部で48項目を作成しました。これに対して提供される意見は、修正版の作成に役立てるとともに、これからさらに318項目を作成する指針とさせていただきます。時間が限られているため、48項目を全部検討するのも、見直しに関する質問に全部答えるのも無理であれば、できる範囲でご協力をお願いします。

次回に取り組む原理と、今後の予定

このプロジェクトではほかにも、まだ、さまざまなスピリチュアルの原理に関するメンバーの経験談を募集しています。www.na.org/spad をご覧いただいて、みなさんが書く気になったり、ワークショップのテーマにしたくなるような引用を選んでください。このプロジェクトに協力するために、親しい仲間や、スポンサーや、ホームグループのメンバーたちと定期的に集まることも考えられるし、あるいは、各サービス機関によってプロジェクトによるワークグループもしくは特別委員会を結成することも考えられます。ぜひ、ご検討ください。

2019年10月末までに取り組むべき原理と引用：
アノニミティ ・ 見抜く力 ・ 共感 ・ 信じる気持ち ・ 感謝の気持ち
正直 ・ 希望 ・ 広い心 ・ やる気 ・ 用心

（10月の初めには、次回に取り組む原理と引用がウェブサイトに掲載される予定です）

na.org/spad

みなさんの意見をお寄せください。
インターネット（www.na.org/spad）、Eメール（spad@na.org）、
郵送（SPAD: 19737 Nordhoff Place; Chatsworth, CA 91311 USA）

サービス センター

NAワールドサービスによるウェブ会議を活用すると:

- サービスに関わっている仲間たちとつながってアイデアや経験を共有できる。
- 自国や世界中にあるNAの成長に貢献できる。
- サービス機関がもっとNAに役立てるようにさまざまなツールを開発することができる。
- 回復を求めているアディクトたちにNAのメッセージを運ぶことができる。

NAワールドサービスによって継続的に開かれるウェブ会議には、NAのメンバーならだれでも出席できます。ここで議論を重ねることによって、以下のようなサービスのツール［道具］が誕生するということもありました。

✓ パブリックリレーションズ（広報活動）：フォンライン（電話案内サービス）・ベーシックス [www.na.org/PR]

✓ ローカルサービスのツールボックス：CBDM（合意による意思決定）・ベーシックス [www.na.org/toolbox]

✓ コンベンションとイベント：プログラム コミティ＆プログラム作成（コンベンションの実行委員会および企画立案） [www.na.org/conventions]

これ以外にも、ひきつづきツールや資料の開発に取り組んでいくため、みなさんの参加と意見提供をお待ちしています。詳しくは、www.na.org/webinar をご覧ください。ぜひ、ご協力をお願いします。

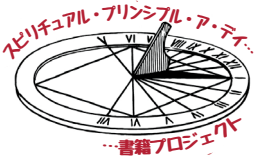
検討すべき課題

「検討すべき課題（IDT：イシュー・ディスカッション・トピックス）」は、世界中のNAで議論をするテーマです。このような議論によってメンバーたちの関心が高まれば、グループやサービス機関のなかで一体性を築くことができるようになるでしょう。そして、議論を重ねた結果は、ワールドボードに提供することでNA全体による資料づくりやサービスに役立てることができるのです。以下にある３つは、2018年～2020年までの２年間に「検討すべき課題」となっています。世界各地のNAでこの３つをテーマにワークショップやコンベンションを開催して、メンバーたちの参加をうながすようにお願いします。

- 「NAのメッセージを運ぶこと」と「NAに関心を持ってもらうこと」
- 「メンバーたちをサービスに引きつける」
- NAに関係のある「薬物代替療法（DRT）および投薬治療（MAT）」

ワークショップの概要、パワーポイントによるプレゼンテーション［説明資料］、配布資料をはじめとして、IDTに関するディスカッションやワークショップの開催に役立つ資料は、www.na.org/idt に掲載されています。みなさんのワークショップで得られた結果は、worldboard@na.org までお寄せください。

『スピリチュアル・プリンシプル・ア・デイ』に関する書籍プロジェクト



このプロジェクトについても、スピリチュアルな原理を選ぶにあたってメンバーから意見を募集中です。みなさんがスピリチュアルな原理によって生きるうえで経験してきたことを、わかちあっていただくようにお願いします。プロジェクトの詳細や、ワークショップに関する資料、そしてオンラインフォームによる意見提供については、www.na.org/spad をご覧ください。

精神の健康や疾患に関するIP（インフォメーション パンフレット）

これも、みなさんが無関心ではいられない文献のプロジェクトでしょう。詳しくは「精神の健康や疾患に関するIP（インフォメーション パンフレット）プロジェクト」（www.na.org/mhmi）をご覧ください。みなさんからの意見提供をお待ちしています。

NAの祝日

2018年度のワールド サービス カンファレンスでは、ユニティデーと同じようにNA全体で祝う「特別な日」を設けるという動議が承認されました。新たにできた３つの祝日を、みなさんならどんなふうに祝うでしょうか。ぜひ、世界中のNAで検討や議論を重ねてください。 みなさんのアイデアや意見が worldvoard@na.org に寄せられるのをお待ちしています。

2019年5月1日は「サービス デイ」
2019年6月の第１週は「PR（広報）週間」
2019年９月1日は「ユニティ デイ」
2019年12月1日は「スポンサーシップ デイ」

ワールドサービス カンファレンスに関することはすべて、以下のサイトをご覧ください。
このサイトは、締め切り、アンケート、文書、プロジェクトによって定期的に更新されています。www.na.org/conference

インターネット上と世界各地のサービスデイ

私たちは、南アフリカ リージョン サービス委員会の合意にもとづき、2019年５月1日の「ＮＡ初のサービスデイ」を祝うためにサービスに関するスピーカージャムをインターネット上で開催しました。このようなイベントは、NAでは前代未聞のものでした。主催に使用した電子会議プログラムは無料だったため、イベントの「費用」は、メンバーが参加するために各自で利用した無線プランのデータ料金だけですんだのです。

このイベントは、NAのメッセージを運ぶことと、世界中のメンバーたちをスピーカージャムのために呼び集めることにおいて、オンラインプラットフォームの有効性を試してみる機会になりました。こうやってインターネットによって集まることにすれば、移動にかかる費用や、会場がらみの諸経費など、さまざまな課題があってサービスの会議やイベントの開催がむずかしいということもなくなるでしょう。

当日は、南アフリカ リージョンによるパネルセッションが開催され、パネルメンバーとなったリージョンの代表代理や、リージョンのサービス委員会の議長、リージョナルコンベンションの実行委員長、そして南アフリカ文献翻訳委員会の委員長によって、南アフリカ リージョンのいくつかの地域にみられるNAの発展について素晴らしい近況報告がありました。

また、世界各地のメンバーによるパネルでは、少なくとも４つの異なる国から何人ものスピーカーが参加し、そのクリーンタイムを合わせると200年を超えていました。そのなかには、ワールドサービスのスタッフ２名と、元ワールドボードのメンバー２名がいました。テーマには、「パブリックリレーションズ(広報)」、「ベーシック・ミーティングリスト・ツールボックス」、「アウトリーチ」、「ワールドサービスのウェブページ」が取り上げられ、長い間サービスに関わっているメンバー２名によるわかちあいも素晴らしいものでした（これには、参加者のほとんどが涙ぐんでいました）。

当日の参加者は総勢で100名を超え、世界各地から参加してくれたメンバーたちと、南アフリカのイースタンケープやピーターマリッツバーグをはじめとするアフリカ全域から参加したメンバーたちが（中間施設の入所者も加えて）、一体となっていました。そして、このメンバーたちは、それぞれのNAで企画したイベントでも協力し合い、このスピーカージャムの音声と映像をイベントのプログラムのなかで流してくれたのです。

このスピーカージャムではほかにも、面白い展開がありました。エリアやリージョンやゾーンの間で最良の経験を共有できるように、サービス委員会のメンバーたちが互いの連絡先を交換してネットワークをつくる機会になったのです。こうしてやりとりできるのはものすごく効果的で、さまざまなアイデアや経験がこのネットワークを行き交って実を結び、ひいてはサービス委員会のメッセージを運ぶ能力が向上することとなりました。

要するに、今回、初めてインターネットによるイベントに挑戦したのは、無駄ではなかったようです。ナルコティクス アノニマスで回復の道を歩むアディクトたちは、こんなイベントがあると、よくぞ開いてくれたと参加する気になるみたいです。

NA ワールドサービスと、南アフリカのリージョンサービス委員会ならびにイベント実行委員会、そしてイベントに関する情報を広めてくれた人たち全員に、心から感謝しています。どのようなかたちでも協力を惜しまなかったみなさん、本当にありがとうございました。

心を込めてサービスに尽くしつつ、
南アフリカ リージョン
フェローシップディベロップメント小委員会

Delhi Area Service Day workshop
Photo: Amitabh S, New Delhi, India

サービスデイにぴったり！
「役に立ちたい」ボタンができました。今ならまだ、以下のサイトで購入できます。
NAWS: **www.na.org/webstore**

カンザス・シティのサービスデイ

僕たちが「サービスデイ」に行ったイベントは、『スピリチュアル・プリンシプル・ア・デイ(SPAD)』に関するワークショップでした。これはユナイテッド カンザス シティ（UKC）エリアによる主催で、ホームワードゥ・ジャーニー・グループ（家路に向かう旅グループ）のミーティングに先立って、夕方に開催しました。UKCエリアは10グループから成り、「カンザス シティ・メトロ サービス委員会」に参加しています。このサービス委員会では、４つエリアが協力しあってサービス活動（たとえば、パブリックリレーションズ、H&I、アウトリーチ、文献、ニューズレターなど）を行ってきました。

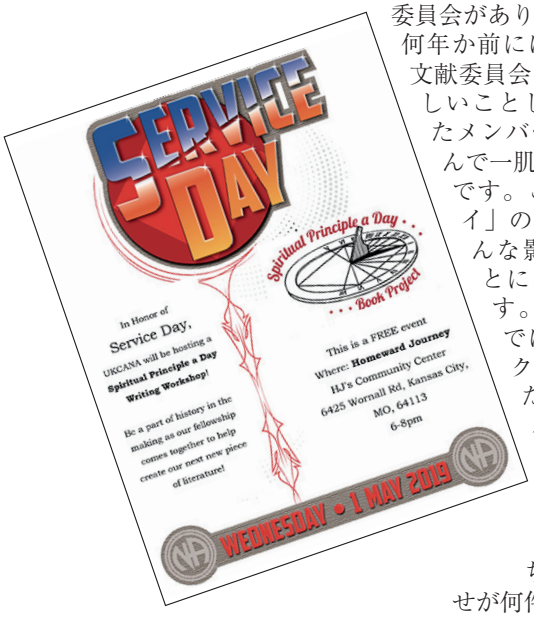
当日は、6時に集合し、『SPAD』に関するワークショップを簡略して行いました。参加人数（たったの９人）は少なかったけれど、みんな熱意にあふれていました。参加者は３つのグループに分かれ、それぞれに忍耐力、理解力、サービスというテーマが与えられました。これは、プロジェクトによる現在のリストから適当に選んだものです。また、各テーマに関するNA文献からの引用も、各グループのメンバー全員に提供しました。そして、テーマごとにグループで話し合って、メンバーがそれぞれに自分の考えを書き、最後に全体でわかちあったのです。

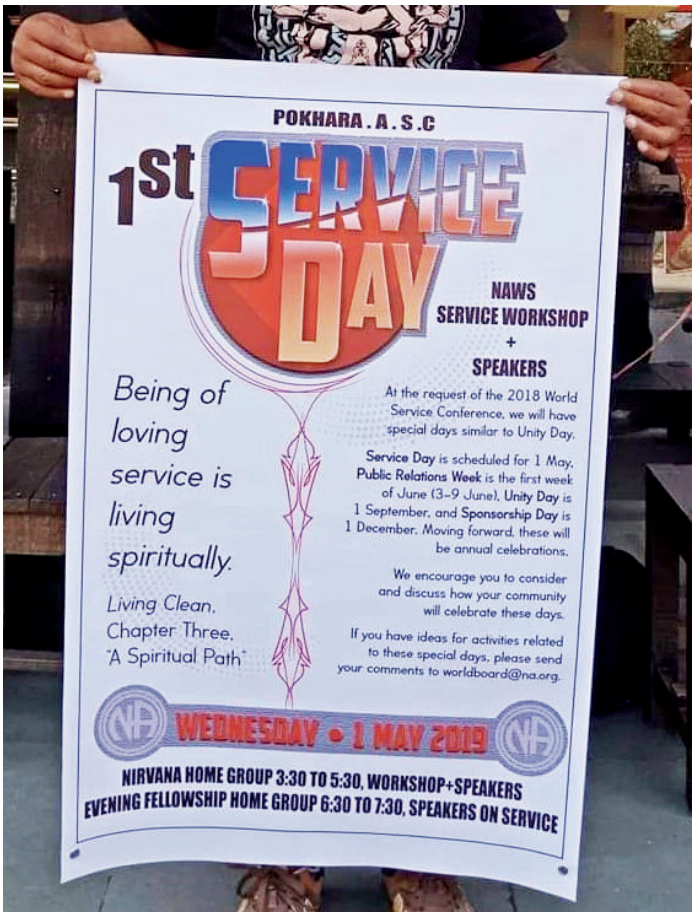
参加者のひとり、リサ・Nは、サービスについてこんなことを書いてくれました。

「わたしは、ささやかなことも、ほどほどのことも、大きなことも、NAのサービスをしっかりやっていくつもりです。そうやってサービスの場にいれば、わたしは孤立しないし、世界中のNAの仲間たちとも通じていられるでしょう」

全体的にみると、サービスというものについても、『スピリチュアル・プリンシプル・ア・デイ』という書籍プロジェクトについても、「サービスデイ」によって意識が高まったのではないかと思います。カンザスシティ・メトロには文献に関する委員会がありませんが、実は、何年か前にはあったのです。文献委員会をつくるなんて難しいことじゃないと気づいたメンバーたちが、よろこんで一肌脱ごうとしたからです。この「サービスデイ」のイベントが今後どんな影響をもたらすことになるか、楽しみです。今回のイベントでは、これまでワークショップで見かけたことのないメンバーが２人ほど参加していたし、ふだんはサービスに関わっていないメンバーたちからの問い合わせが何件かありました。

スコット・M
（アメリカ合衆国／ミズーリ）





ポカラで祝う初のサービスデイ

ポカラ エリア サービス委員会とニルヴァーナ グループは、ワークショップとスピーカーミーティングを開催して「サービスデイ」を祝いました。会場は、ニルヴァーナ グループのミーティング場です。当日は、「NAのメッセージを伝えてもらえずにいたら、どうなっていただろう」と「サービスをもっと効果的で魅力のあるものにする」というテーマで２つのワークショップを行い、それが終わってから、「ホームグループのために役立つ」というテーマで２人のスピーカーが話をしました。

ポカラ エリア サービス委員会（ネパール）

第3回 ヨーロピアン サービス ラーニング デイ：サービスの精神

ヨーロピアン デリゲート ミーティング（EDM）による第3回ヨーロピアン サービス ラーニングデイ（ESLD：EDMによるサービス研修会）は、2019年4月26日から28日にかけてチェコ共和国のプラハで開催されました。ESLDは、最も純粋な形でのフェローシップディベロップメントといえるでしょう。EDM本来の議事とは別に、サービスとヨーロッパ各地のNAの成長を助けることに全力を注いでいます。私たちは、ヨーロッパ各地のNAがもっと広範囲にわたってコミュニケーションできるようになることを目指し、ESLDをその一環と考えているのです。

私たちは、2015年に第１回、2017年に第２回とESLDを開催し、その結果に圧倒されました。第１回は30カ国に及ぶ27のリージョンから162名の登録参加があり、第２回は27カ国から176名の登録参加があったのです。そして、2019年の今回は、32の国や地域から200人弱の登録参加がありました。すごいことになってきたという実感があり、それはとりもなおさず、ESLDが広い意味でのフェローシップディベロップメントに対する私たちの期待に確実にこたえるものになったということでしょう。

第３回ESLD では、４つの検討すべき課題や、グループ、エリア、リーリョンでのサービスによってメンバーたちにさまざまな経験をしてもらうためのセッションをはじめとして、15のワークショップを開きました。そして、２つのスピーカーズ ミーティングと、「小さなリージョンで回復の道を歩むこと」に関するパネルディスカッションによって、当日のプログラムが終了しました。もちろん、ワークショップやミーティングが開かれている会場の外でもたくさんの交流があり、土曜日の夜にはダンスフロアで仲間たちとの交流を満喫しました。

ESLDについて詳しく知るには、www.edmna.org/fellowship-development/learning-days.html をご覧ください。

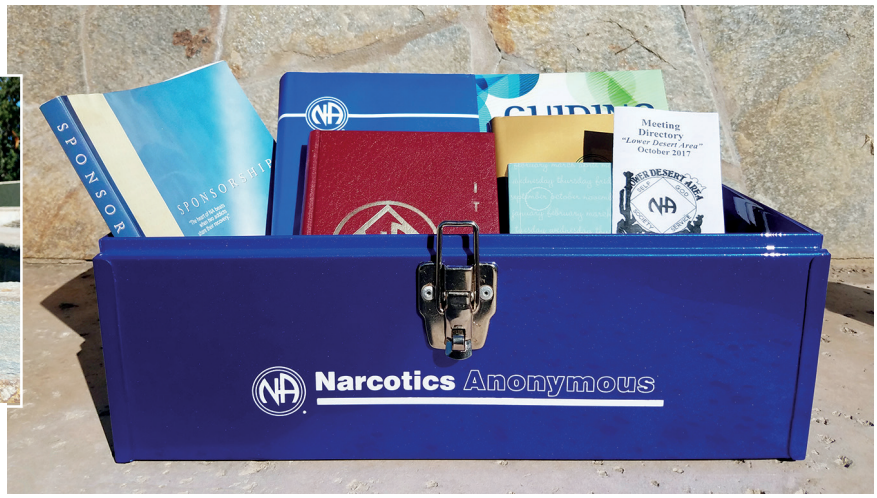
ヨーロピアン デリゲート ミーティング
フェローシップディベロップメント委員会

ベーシック・キャプションコンテスト（BCC）

ここに、みなさんがNA Wayマガジンに参加できる新企画をご用意しました。左にあるコミック[漫画]のキャプション[短い説明文]を書いて送っていただくだけで、そのままキャプション・コンテストに参加できてしまうのです。みなさんのキャプションから傑作と思えるもの（1点とは限らないかもしれません）を選んで、次回のNA Wayマガジンに掲載させていただきます。そうやってNA Wayに名前が載るというのも、なかなかいいものでしょう。　申し込みは、Eメールで受けつけています。宛先は naway@na.org。件名は「ベーシックキャプション・コンテスト」とし、本文には名前と住所を必ず記入するようにお願いします。

今回のBCCの受賞者は、2019年10月のNA Wayで発表されます。次回のお題となるこの写真にも、アイデアをお寄せください

アート・M（アメリカ合衆国／カリフォルニア）



みなさんが発行するニューズレターのメーリングリストに naway@na.org を登録していただくよう、あらためてお願いします。そして、以下についても

みなさんのご協力をお願いします。

ニュースレターに関するガイドライン募集中！

ニュースレターの発行や改良を望む世界各地のNAと、情報を共有しましょう。

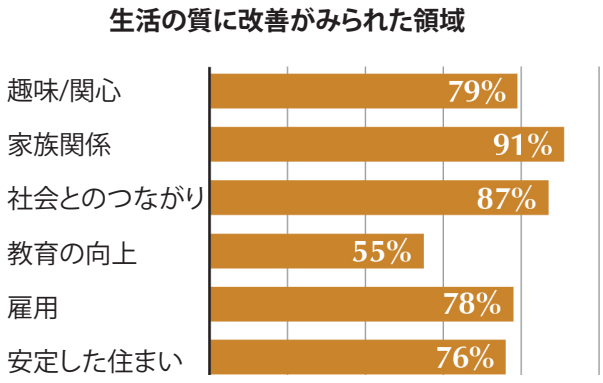
現在利用可能なガイドラインについては www.na.org/localresources.*　をご覧ください。

*このウェブページにある資料は、世界各地のサービス機関が作成しているものであり、（特に明記されることがない限り）NAワールドサービスまたはワールドサービスカンファレンスによる承認も支持もされていません。ガイドライン以外にも共有できるサービス資料がある場合には、fsmail@na.org にお寄せください。

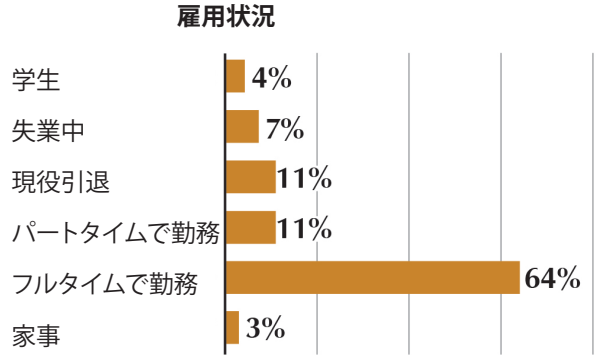
2018 メンバーシップ調査

最新のNAメンバーシップ調査では、28,000人を超えるメンバーから回答がありました。内訳は、8月30日～9月2日にフロリダ州オーランドで開催された第37回WCNAでの回答が約1万人、さらにオンラインおよび郵送による回答が1万8千人以上となっています。この調査は主に、一般の人たちに証拠にもとづくデータを提供するために用いられます。これにより、NAのメンバーならわかりきっていること、すなわち回復を求めるアディクトたちにとって、NAは信じられる回復例の豊富な社会資源であることがわかるからです。また、一部の質問は、専門家にとって重要性の高いものでしょう。たとえば、回復における生活の質の改善に関する質問などは、私たちが社会人となって立派に生きていけることをいく通りも示すのに役立ちます。

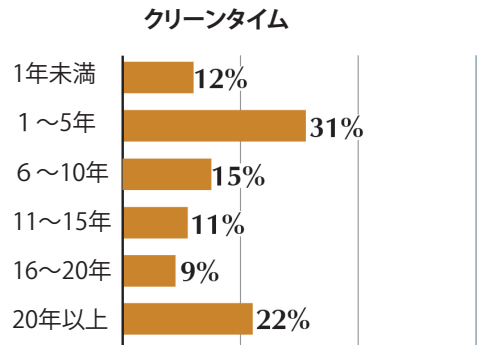
ヨーロッパ版のメンバーシップ調査パンフレットが発行されることになるのは、今回が2回目で、ロシア語版の発行は初めてとなります。これは、ヨーロッパ27カ国のメンバー2,260人の回答と、ロシアのメンバー2,671人の回答を反映するものです。こうして調査結果が具体性を増すことにより、専門家に協力を求めているNAが、世界中どこにいるアディクトにもNAは貴重な資源であることを専門家に認めてもらいやすくなるでしょう。なお、この紙面で紹介する調査結果は、世界中のメンバーから寄せられた回答によるものです。



生活の質に改善がみられた領域： 「家族関係」が1位で、「社会的つながり」がわずかの差で2位。それ以下で、「雇用」、「趣味／関心」、「安定した住まい」を生活改善の重要な領域としている割合には、ほとんど差がみられません。



雇用状況： 回答者の大多数が、クリーンになってからはフルタイムの職業に就いたことが示されました。



クリーンタイム： 回答全体の平均クリーンタイムは11.41年。これは、NAではアディクトがクリーンにとどまって回復しているという事実をはっきりと示すものです。

今回の調査結果で、専門家よりも私たちの方が関心を持ちそうなものには、スポンサーシップとサービスがあります。回答者の87%がスポンサーを持ち、55%がだれかのスポンサーをしています。また、サービスに関わっているという回答は実に95%にも上り、その多く(57%)はグループやミーティングでのサービスでした。

また、NAミーティングに参加するのに最も影響力のあるものとしては、たいてい治療施設やカウンセリング機関が挙げられるのですが、今回はNAメンバーの影響が49%となり、これまでの調査では初めて、NAに参加する最も有力なものに挙げられました。この調査をする上では、NAが治療やカウンセリングの分野でよい関係を維持しつつあると確信できることを望んでいますが、NAのメンバーとしては、自分たちがほかの人たちに手を差し伸べてNAならうまく生きられるということを示しているとわかるのは、やはり嬉しいものです。

世界中のメンバーによる『NAメンバーシップ調査』は、今年の夏の終わりにはみなさんが手にできるよう出版したいと考えています。ただし、プレゼンテーションに使いたいというメンバーたちのために、パワーポイントによる資料はすぐにでも www.na.org に掲載する予定です。調査に協力してくださった世界中のNAメンバーたちに心から感謝いたします。NAという集まりの素晴らしさをこうして垣間見ることができるのも、みなさんのおかげです。

¡Feliç Diada de Sant Jordi!
楽しい聖ジョージの日

4月23日は、聖ジョージ（Diada de Sant Jordi）の日。スペインのカタルーニャ地方では特別な祭日で、バラと本の日とされています。実際に、バラと本が友人や恋人同士の贈り物とされることで愛と文化の祭典になっています。バルセロナの通りや広場には人があふれ、本やバラを売る露店がひしめいています。みんな、露店に並ぶ本をみてまわりながら通りをうろうろしているのですから、なんとも楽しくてゆかいです。聖ジョージの日は100年以上にわたってこのように祝ってきましたが、そのにぎわいと本に対する情愛は、国連がとりまとめた世界的な「本と著作権の日」の着想となったのです。（この４月23日はまた、有名な劇作家ウィリアム・シェークスピアの命日でもあります。）

バルセロナでとても人気のある待ち合わせ場所はグラシア通りで、どこまでいっても人と露店でごった返しています。そこに、私たちもいました。バルセロナのナルコティクス アノニマスです！

今年の聖ジョージの日には、カタルーニャ エリア サービス委員会のPR(広報)小委員会が初めて、露店を出したのです。NAに関する情報を提供して、関心のある人たちにNAの文献を手にしてもらうおうというわけですが、露店では、地元にあるNAの案内を掲載したブックマーク（しおり）も配りました。この日は、成果がありました！ 600人以上の人たちにブックマークや、ミーティング案内、インフォメーションパンフレットを手渡したほか、書籍も５冊購入していただきました。また、この日は、30人の地元のメンバーたちが入れ替わり立ち替わり参加してくれたため、NAのサービスを祝う日にもなりました。みんな、ありがとう！

来年の4月23日にバルセロナを訪れることがあれば、ぜひ、「聖ジョージの日」を祝うNAの露店へお立ち寄りください！

ローラン・D（スペイン／バルセロナ）

ナルコティクス アノニマス初の
パブリック リレーションズ ウィーク
世界各地のNAから報告が寄せられています。
NA Way10月の特集を、お見逃しなく！

Narcotics Anonymous World Services

問い合わせ：worldboard@na.org　PRウィークに関する画像の送信：pr@na.org

グループ紹介

ＡＷａｙでは、世界中のＮＡからミーティング会場やイベントの写真が送られてくるのをお待ちしています。ただし、集まっているメンバーがどこのだれとわかる写真はご遠慮ください。なお、写真には、グループやイベントの名称、所在地および国名はもちろん、グループやイベントが誕生してどのくらい経つのか、ミーティングの形式やイベントで大事にしている習慣、ユニークな点など、グループやイベントの紹介文を添えていただくようにお願いします。宛先は、naway@na.org となっています。

西アフリカ初の女性ミーティング

NAワールドサービスのみなさんへ
2019年5月15日

わたしが働いているナイジェリアの治療施設では　昨年11月に助成金をいただいて女性の薬物使用者のドロップ･イン･センター* が誕生しました。それからずっと、アディクトの女性が自分たちで自分たちのために、このセンターでNAのミーティングを開けるようにするにはどうするのが一番よいのかと、わたしたち地元のNAメンバーが何人かで模索してきました。そして、近隣の治療施設の職員からも連絡があり、女性の利用者がひとり退所することになっているので、センターでNAのミーティングをやるなら、この女性も参加させたいと言われたのです。

そこで、わたしたちは1日をかけて、アディクトの女性たちにNAのことを知ってもらうためのセッションを開きました（これには、例の退所予定の女性も参加しました）。まず、わたしたちがNAについて簡単な説明をして、どうすればうまくいくかという話をしたあと、インターネットによってケニアからひとり、南アフリカからひとり、女性のメンバーが参加して、自分たちがどのようにしてNAで助かったのかという話をしてくれました。わたしはセッションを終了するにあたって、これで解散としますが、NAのグループを立ち上げる話し合いに関心がある人はこのまま残ってくださいと、参加した女性たちに伝えました。

すると、女性たちは、だれも帰ろうとしなかったのです!

それで、この34人の女性たちを残して、わたしたちはみな部屋を出ました。女性たちだけで話し合って、ミーティングを開く日時や、セクレタリーになれそうな人を決めてもらうようにしたのです。

わたしは事務室にいても、気になって仕方がありませんでした。そして30分もすると、例の治療施設から紹介された女性がわたしのところへやってきました。この女性が、セクレタリーに選ばれたのです。ミーティングは、金曜日の午前10時に開かれることになったということでした。（そして、先ほどのセッションでインターネットによるスピーカーをした女性のひとりにスポンサーをお願いしたいので、連絡先を教えてほしいと頼まれました）こうして、西アフリカに初めて、女性ミーティングが誕生したのです。

アノニマス（ナイジェリア）

（訳注）* ドロップ･イン･センター:立ち寄ってくつろいだり相談したりできる公共の施設

心をひとつに
することが
愛の実践になる

『リビングクリーン』、
第７章「旅は続く」

ワールド ユニティ デイ

2019年9月1日（日）ー 午前10:00
(東部夏時間)

この日は、みんなと一緒になって、**世界中の仲間たち**のことやNAの第一の目的についてしばし考えをめぐらせましょう。そのとき、まだ苦しんでいるアディクトにメッセージを運ぼうと、NA全体の心がひとつになっているのです。

９月1日（日付変更線を越える場合は9月２日）には、世界中の仲間たちが「平安の祈り」を**一斉**に唱えることになるでしょう。

このユニティデイには、ユニティデーのイベントやミーティングに参加したり、仲間たちと集まったり、あるいはまた、ひとり静かに過ごしたりと、それぞれが時間を見つけて世界に広がるNAを**祝う**のです。

ユニティデイの世界時間表示例

さらに詳しい情報については、ウェブサイトwww.na.org　または 電話818.773.9999 でご確認ください。

カレンダー

Multiday events and those occurring between publication dates are printed according to the schedule posted online. To enter events or to access event details, visit the online calendar at **www.na.org/events**. (If you don't have internet access, fax or mail your event info to 818.700.0700, attn: NA *Way*; or *The* NA *Way*; Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USA.)

Barbados

Christ Church 14-17 Nov; Barbados Area Convention; Barbados Beach Club, Christ Church; http://nabarbados.org

Belarus

Minsk 23-25 Aug; First Belarus Area Convention; Minsk City Palace of Culture, Minsk; http://na-rb.by/

Bermuda

Southampton 6-8 Sep; Serenity in Paradise Convention 9; Fairmount Southampton Resort, Southampton; www.nabermuda.org

Brazil

Santa Catarina 23-25 Aug; Forum de Serviços 5; Hotel Tropicanas, Florianopolis; http://www.na.org.br/evento

Maranhão 12-15 Sep; Nordeste Regional Convention 3; Rio Poty Hotel, São Luís; http://crnanordeste.com.br/sobre-nos/

Rio Grande do Sul 20-22 Sep; Rio Grande do Sul Regional Convention 2; Casa de Cultura Mario Quintana, Porto Alegre; http://www.na.org.br/

Goiás 7-10 Nov; Convenção da Região Brasil 21; Hotel Pousada dos Pireneus Resort, Pirenópolis - GO; https://www.na.org.br/evento/xxi_convencao_regiao_brasil_de_na__por_um_proposito_bem_maior.html

Canada

Saskatchewan 16-18 Aug; Southern Saskatchewan Area Convention 35; Core Ritchie Centre, Regina, SK; https://www.southsaskna.org/

Alberta 30 Aug-1 Sep; Al-Sask Regional Convention; Nitehawk Adventure Park, Grande Prairie; https://prnaconvention.weebly.com/

Ontario 6-8 Sep; Canadian Convention 27; Americana Conference Resort & Spa, Niagara Falls; http://canadianconvention.com

Costa Rica

San José 25-27 Oct; Latin American Convention 14; Wyndham Herradura Hotel & Conference Center, San José; https://www.clana2019.com/en/costa-rica

Denmark

Skanderborg 2-4 Aug; Convention & Camp 12; Audonicon, Skanderborg; http://www.namidtjylland.dk/konvent/index.htm

France

Saint-Raphaël 20-22 Sep; France Regional Convention 22; CREPS Boulouris, Saint-Raphaël; https://www.narcotiquesanonymes.org/evenements

India

Maharashtra 19-21 Sep; First United Women's Convention; Serenity Resort, Lonavala; https://naindia.in/events/

Japan

Utsunomiya 6-8 Sep; Japan Regional Convention 15; Utsunomiya City Cultural Hall, Utsunomiya-shi Tochigi-ken; http://najapan.org/jrcna/15

Lithuania

Klaipėda17-18 Aug; Baltic Convention 17; Kulturos Fabrikas, Klaipėda; http://lietuvos-na.lt/

Mexico

Baja California 11-13 Oct; Baja Costa Area Convention 27; Real Inn, Tijuana; event info: Scott A 858.277.6438; Zuri C 011.52.1.664.491.5515

Portugal

Alcobaça 21-22 Sep; Área Oeste Convention 2; Cine-teatro de Alcobaça João D'Oliva Monteiro, Alcobaça; http://www.2cao.pt/

Puerto Rico

San Juan 30 Aug-1 Sep; Puerto Rico Regional Convention Unidos Podemos 30; Sheraton Puerto Rico Convention Center, San Juan; http://www.narcoticosanonimospr.org/

United States

Alabama 20-22 Sep; Surrender in the Mountains; Cheaha State Park, Delta; https://www.alnwfl.org/

Arizona 16-18 Aug; Productive Members of Society Group's Women's Spiritual Retreat; Cabins on Strawberry Hill, Strawberry; event info: 602.330.5685

2) 30 Aug-1 Sep; SouthEast Arizona Area Convention 5; Hotel Tucson City Center, Tucson; http://natucson.org/convention.html

California 23-25 Aug; Eleventh Step Retreat 7; Belden Town, Belden; https://916northna.org/

2) 18-20 Oct; Men's Retreat/Campout 4; Lake Piru Camp, Lake Piru; https://www.ahhscna.com/ahhscnawp/

Colorado 16-18 Aug; Women's Retreat 6; Rocky Mountain Village-Easter Seals Camp, Empire; http://wrcna.nacolorado.org/

2) 1-3 Nov; Colorado Regional Convention 33; Crowne Plaza DIA Convention Center, Denver; https://nacolorado.org/crcna/

Connecticut 23-25 Aug; Central Connecticut Spiritual Weekend 31; Enders Island, Mystic; https://ctna.org/event/cca-31st-annual-spiritual-weekend/?instance_id=10415

Florida 30 Aug-1 Sep; First Coast Area Convention 17; Lexington Hotel & Conference Center, Jacksonville; http://firstcoastna.org

2) 30 Aug-2 Sep; South Florida Regional Convention 24; Fort Lauderdale Marriott Harbor Beach Resort & Spa, Fort Lauderdale; https://sfrcna.com/

3) 18-19 Oct; Treasure Coast Area Convention 10; Hutchinson Island Marriott, Stuart; http://treasurecoastareana.com/

Georgia 8-11 Aug; Midtown Atlanta Convention 27; Hilton Airport, Atlanta; http://Midtownatlantana.com

Illinois 23-25 Aug; First MidCity Area Convention; DoubleTree, Oak Brook; http://www.chicagona.org/

Indiana 11-13 Oct; Central Indiana Area Convention; Marriott East, Indianapolis; https://centralindianana.org/

Louisiana 23-25 Aug; Louisiana Regional Convention 37;

Marriott Downtown, New Orleans; https://www.larna.org/

Maryland 20-22 Sep; Tri-County Area Unity Retreat River of Hope 13; Lyons Camp Merrick, Nanjemoy; http://www.cprna.org/

Massachusetts 2-4 Aug; In the Spirit of Unity; Tower Square Hotel, Springfield; http://www.wmacna.org

2) 25-27 Oct; Berkshire County Area Convention; Jiminy Peak, Hancock; https://berkshirena.com/

Michigan 9-11 Aug; R&R at the Fort; Camp Fort Hill, Sturgis; event reg: 269.259.1860

Mississippi 18-20 Oct; Mississippi Regional Convention; Regency Hotel & Conference Center, Jackson; http://www.mrscna.net/

Nebraska 4-6 Oct; Nebraska Regional Convention 36; Divots Conference Center, Norfolk; http://nebraskana.org/

Nevada 8-10 Nov; Sierra Sage Regional Convention 24; Grand Sierra Resort, Reno; https://www.sierrasagena.org/

New Jersey 2-4 Aug; New Jersey Regional Convention 34; Crowne Plaza, Cherry Hill; https://njrcna.com/

New York 2-4 Aug; Growing Through the Process Women's Retreat; Don Bosco Retreat House, Stony Point; event info: 917.783.2018

2) 23-25 Aug; Greater New York Regional Convention; Sheraton Times Square, New York; http://www.newyorkna.org

3) 25-27 Oct; Suffolk Area Convention 15; Radisson Hauppauge-Long Island, Hauppauge; https://www.sasnaconvention.org/

North Carolina 20-22 Sep; More Powerful than Words Convention; Livingstone College Event Center, Salisbury; http://www.cpa-na.org/

2) 20-22 Sep; Keys to Freedom 3; Courtyard by Marriott, Springfield; http://sascna.org

Oregon 13-15 Sep; Ride 4 Recovery Oregon; Grove Christian Camp, Dorena; event info: 541.363.7433

Pennsylvania 18-20 Oct; Williamsport Area Convention 14; Best Western Genetti Hotel, Williamsport; http://www.williamsportna.org/

2) 31 Oct-3 Nov; Start to Live Convention 37; Bayfront Convention Center, Erie; http://www.starttolive.org

3) 1-3 Nov; First Greater Scranton Steamtown Area Convention; Hilton Hotel, Scranton; https://www.gssana.com/

South Carolina 8-10 Nov; The Ultimate Narcotics Anonymous Convention 4; Landmark Resort, Myrtle Beach; https://www.tunacon.org/

South Dakota 2-11 Aug; Sheridan Lake Campout 25; Squirrel Group Campsite, Hill City; event info: 605.787.2872

2) 20-22 Sep; South Dakota Regional Convention 22; Grand Gateway Hotel, Rapid City; http://www.sdrna.com/

Tennessee 16-18 Aug; Greater Nashville Unity Convention 15; Millennium Maxwell House Hotel, Nashville; http://www.nanashville.org

Texas 13-15 Sep; Houston Area Convention 13; Hilton Houston North, Houston; http://www.hacna.com/

2) 4-6 Oct; Frolic in the Woods 28; Garner State Park, Concan; https://eanaonline.org/

Virginia 23-25 Aug; Almost Heaven Area Convention 33; 4-H Educational Center, Front Royal; http://www.almostheavenareana.org

Washington 8-10 Nov; Western Service Learning Days 33; Sea-Tac Marriot, Sea-Tac, Seattle; https://wsld.org/

NAWS Product Update

We *All* Are PR note cube

In celebrating our first worldwide PR Week, this 2.75" x 2.75" x 2.75" note cube is available in limited stock to help area, regional, and zonal PR subcommittees plan activities to increase awareness.

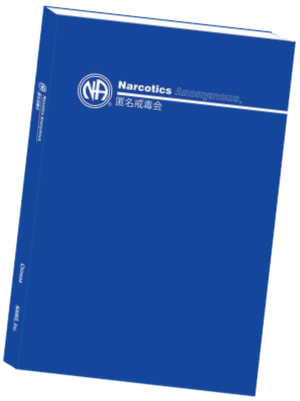
Item No. 9601 Price US $5.50/4.90 €

Chinese

Basic Text (Fifth Edition)

匿名戒毒会

Item No. CH1101
Price US $8.30/7.25 €



2018 Versions

Available late July

NA: A Resource in Your Community

Item No. 1604 Price US $0.42/0.36 €

Membership Survey

Item No. 2301 Price US $0.32/0.29 €

European Membership Survey

Item No. 2303 Price US $0.32/0.29 €

Information about NA

Item No. 2302 Price US $0.32/0.29 €

IP #29: *匿名戒毒会 (NA) 会议介绍*

Item No. CH3129 Price US $0.25/0.22 €

Danish

NA and Persons Receiving Medication-Assisted Treatment

NA og personer i behandling med substitutionsmedicin

Item No. DK2306 Price US $0.33/0.29 €

Social Media and Our Guiding Principles

Sociale medier og vores vejledende principper

Item No. DK2306 Price US $0.33/0.29 €

Hungarian

IP #21: *A magányos – tisztának maradni elszigeteltségben*

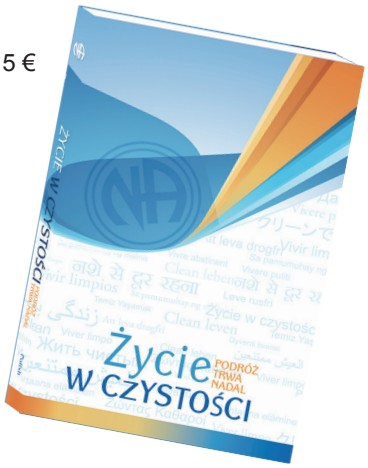
Item No. HU3121 Price US $0.33/0.29 €

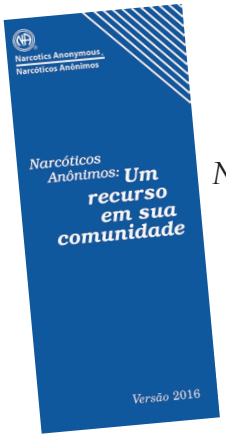
Polish

Living Clean: The Journey Continues

Życie w czystości: Podróż trwa nadal

Item No. PL1150
Price US $10.35/8.15 €





Portuguese (Brazil)

NA: A Resource in Your Community

NA: Um recurso em sua comunidade

Item No. PB1604 Price US $0.42/0.36 €

Coming Soon!

Arabic

It Works: How and Why

إنه ينجح

Item No. AR1140 Price US $9.55/8.40 €

Latvian

Basic Text (Fifth Edition)

Anonīmie Narkomāni

Item No. LV1101 Price US $8.30/7.25 €

Portuguese (Brazil)

It Works: How and Why

Funciona: como e por quê

Item No. PB1140 Price US $9.55/8.40 €

eLit

will soon be available on

Amazon • AppStore
Barnes & Noble • Google Play

Guiding Principles: The Spirit of Our Traditions

Hungarian Basic Text

www.na.org/elit